

台風

台風とは強風や大雨を伴った熱帯低気圧のことで、最大風速がおよそ毎秒17m以上で「台風」と呼ばれます。台風が接近したら、気象情報や、本市が発令する避難情報に注意して被害を最小限に食い止めましょう。



台風の強さの階級分け	階級	最大風速
台風の強さの階級分け	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
	猛烈な	54m/秒以上
台風の大きさの階級分け	階級	風速15m/秒以上の半径
台風の大きさの階級分け	大型(大きい)	500km以上～800km未満
	超大型(非常に大きい)	800km以上

台風をきっかけに起こる主な災害

台風によって引き起こされる災害には、風害、水害、高潮害などがあります。もちろん、これらは単独で発生するだけではなく、いくつもの災害が同時に発生し大きな被害となることがあります。

暴風

家や木が倒れ、鉄塔が曲がったりする。



洪水

川の水があふれて、道路や家が水浸しになる。



土砂災害

大雨によって土や石などが押し流されて家などが壊される。



高波

強風によって波が海岸へ吹き寄せられ波が高くなる。海岸にいる人は波にさらわれることがある。



高潮

海面が吸い上げられ、波を吹き寄せることで海面が上昇し、海岸に近い家などは水に浸かる。



停電

強風で電柱が倒れるなどして電気が使えなくなる。



防災・減災キーワード

強風なら不要不急の外出は控えましょう

台風などの強風時に外出すると、看板などの落下物や飛来物、倒れかけた樹木や折れた枝などに当たって大けがをすることがあります。強風のときは、不要不急の外出を控えましょう。また、高所での作業はきわめて危険なので絶対にやめましょう。



高潮

高潮は台風や発達した低気圧が原因で発生し、気圧の低下による吸い上げ効果や、強風による吹き寄せ効果により、海面が上昇する現象です。海水が堤防を超えると一気に浸水します。また、強風による高波が加わるとさらに浸水の危険が増します。台風情報や高潮警報に注意して、早めに避難することが大切です。

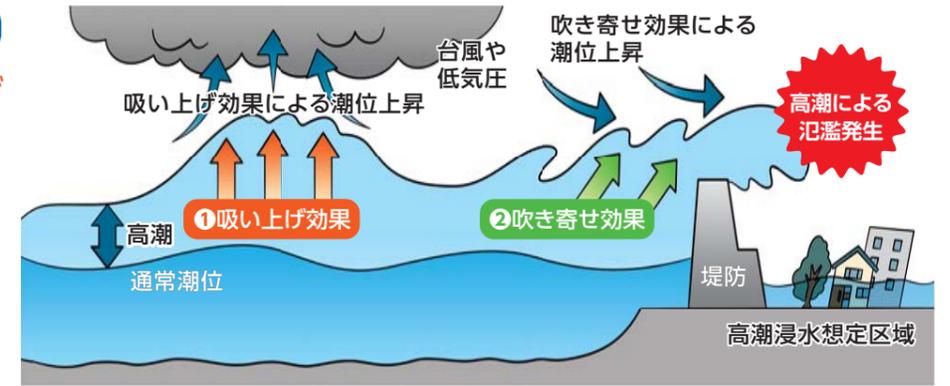
高潮が発生する要因

①気圧低下による吸い上げ

台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

②強風による吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。



高潮から避難するときのポイント

- 気象庁から高潮注意報や高潮警報が発表されたら、早めに避難を開始する。(内陸部でも高潮警報が発表される場合がある)
- 浸水による故障や事故のおそれがあるので、車での避難はしない。
- 徒歩で避難する場合も、冠水している道路は避ける。

すでに高潮が迫っていたら

- 海岸近くにいる場合は、急いで海岸から離れ、なるべく高い場所に移動する。
- 頑丈な建物の高層階に避難する。
- 自宅など建物内にいる場合は、無理をして避難場所や避難所に移動せず、高層階で待機する。

竜巻

竜巻は前線や台風の影響で発達した積乱雲の強い上昇気流によって発生します。竜巻が発生すると、家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより、短時間で大きな被害をもたらします。気象庁から竜巻注意情報が発表された場合は注意が必要です。

竜巻等に関する情報は下記のとおり時間を追って段階的に発表します。

気象情報 (半日～1日前)	「竜巻など激しい突風のおそれ」と明記して注意を促す。
雷注意報 (数時間前)	落雷・ひょうなどとともに「竜巻」も明記して注意を促す。
竜巻注意情報 (0～1時間前)	「今まさに竜巻が発生しやすい気象状況となった段階」で発表。



竜巻が接近したときの周囲の変化

- 地上に伸びる漏斗状の雲が見える。
- 筒状に舞い上がる飛散物が見える。
- 「ゴー」という音が聞こえる。
- 気圧の変化で耳に異常を感じる。

竜巻から避難するときのポイント

屋内にいたら

- 窓やカーテンを閉め、窓から離れる。大きなガラス窓の近くは大変危険。
- 窓にテープを貼るなどして補強する。

屋外にいたら

- 頑丈な建物の物陰に入って身を小さくする。
- 車の中、物置やプレハブ(仮設建築物)などは危険なので逃げ込まない。
- 落雷を伴う場合も多いので、電柱や樹木のそばに近づかない。